



プレス各位

2026年09月14日

ゲーテ・インスティトゥート東京
プレスリリース



@Goethe-Institut Tokyo

ゲーテ・インスティトゥート
東京

〒107-0052
東京都港区赤坂 7-5-56

サンドラ・ヴォーラウフ
広報担当

Tel: 03-3584-3201 (代表)
Fax: +81-3-3586-3069
Presse-tokyo@goethe.de
www.goethe.de/japan

展覧会「Interlinked」を9月18日より開催

ゲーテ・インスティトゥート東京は、**2026年9月18日（金）から10月25日（日）**まで、現代メディアアートのグループ展「Interlinked」を開催します。本展では、オンラインプラットフォームやアルゴリズム、AIによってつくられる現代社会のあり方をテーマに、日本とドイツで活躍するアーティストたちの作品を通して、テクノロジーと人間の関係性を多角的に考察します。

展覧会概要

会場：ギャラリー、ゲーテ・インスティトゥート東京

107-0052 東京都港区赤坂 7-5-56 2 階

会期：2026年9月18日（金）－10月25日（日）

開館時間 火曜－金曜、14:00－20:00

土日、14:00－18:30

月、祝日 休館

入場無料

オープニングレセプション：2026年9月19日（土）17:00－19:00

申込不要

www.goethe.de

**GOETHE
INSTITUT**

Sprache. Kultur. Deutschland.

企画概要

本展「Interlinked」は、オンラインプラットフォームやアルゴリズム、AI（人工知能）によって形成される現代社会のあり方を考察するグループ展です。デジタルテクノロジーはこれまで、現実世界とは異なるもう一つの領域、いわゆる「オフワールド（off worlds）」を生み出してきました。しかし今日では、それらは私たちの日常的なコミュニケーションや生活環境と密接に結びつき、不可欠な存在となっています。

その仕組みはしばしば見えにくいものの、人々が他者と関わり、情報を受け取り、消費し、働き、関係を築くあり方に大きな影響を及ぼしています。また、こうしたテクノロジーは日常生活の隅々にまで浸透し、その存在や働きを意識することすら難しくなっています。

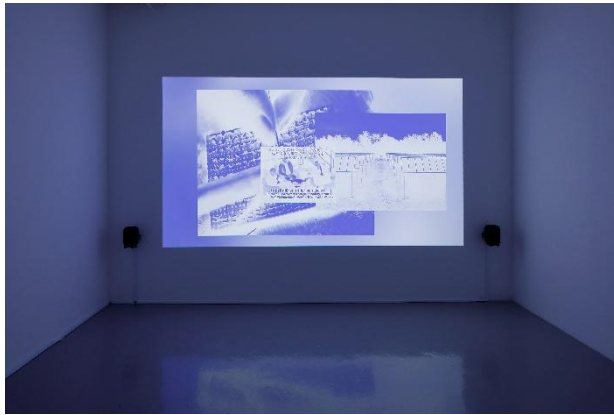
アルゴリズムによって駆動されるメディア環境のなかで、商品やサービスの推薦、情報フィードの表示、さらには対人関係やAIを活用した対話サービスに至るまで、多くの事象が個人の関心や行動履歴、蓄積されたデータにもとづいて最適化されています。人間と非人間的主体との境界が曖昧になりつつある現在、これらのシステムは単に私たちの経験を媒介するだけでなく、認識や欲望、さらには社会そのものの形成にも深く関与しています。

本展では、このような変化し続ける環境を私たちがどのように認識し、そのなかで生きているのかを問い直します。急速に発展する非人間的な知性は、自己認識や心理、親密性、そして他者とのつながりに対する理解にどのような影響を与えているのでしょうか。また、アルゴリズムとの継続的な相互作用を通じて、いかなる新たな主体性が生まれつつあるのでしょうか。

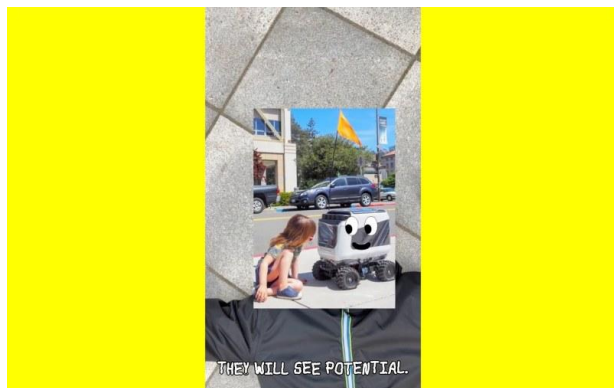
多様なアーティストによる作品や実践を通して、本展はこうした問いへの多角的な視点を提示し、テクノロジーと人間の関係性について再考する機会を提供します。

イベントページは[こちら](#)

出展作家



《名前たちのキス》（2021-） Photo by Keizo Kioku
© Rintaro Fuse



《How To Give Your Best Self Some Rest》（2021）
© Sebastian Schmieg



《Before the Drop》（2025） © Rosa Wernecke

布施琳太郎

iPhone の発売以降の都市における「新しい孤独」や「二人であること」の回復に向けて、自ら手がけた詩や批評を出発点とした絵画や映像作品、インスタレーション、パフォーマンス、ツアー、ウェブサイトの制作、展覧会のキュレーションなどを、複数のアーティストや詩人、デザイナー、研究者、音楽家、批評家、キュレーター、匿名の人々などと共に実践。過去の展覧会に、ルーブル・アブダビ（2025）、金沢 21 世紀美術館（2022）、NTT インターコミュニケーションセンター[ICC]（2021）など。

セバスティアン・シュミーク |

Sebastian Schmieg

ベルリンを拠点に活動するアーティスト、教育者。映像、ウェブサイト、インスタレーション、アーティストブック、ソフトウェア、レクチャー・パフォーマンスなど、多様なメディアを用いて制作を行う。ベルリン芸術大学で学び、これまでにクンストハレ・チューリッヒ、フォトグラファーズ・ギャラリー（ロンドン）、クンストヴェルケ現代美術センター（ベルリン）、クロノス・アート・センター（上海）などで作品を発表。現在はハンブルク応用科学大学でインタラクティブデザインを教えている。

ローザ・ヴェルネッケ | Rosa Wernecke

映像、インスタレーション、ライブ・パフォーマンスなど多様な手法で制作を行うメディア・パフォーマンス・アーティスト。クィアとフェミニストの視点からテクノロジーについて言及する。デジタルなシステムに潜在する偏見や権力構造、文化的な創造性に注目している。テクノロジーを中立的なツールではなくパフォーマンス的な要素として捉え、アートが介入することによって支配的な語りの構造をどのように明らかにし、また再構成することができるのかを探求する。



《Decoding Bias》（2025）© Theresa Reiwer

テレーザ・ライヴァー | Theresa Reiwer

ベルリンを拠点に活動する（ポスト）デジタルアーティスト。マルチチャンネル映像、XR、空間インスタレーションなどにおいて、ゲームエンジン、3D 技術、モーションキャプチャ、AI ツール、さらにはフィクションを用いながら、デジタルな空間と物理的な空間の交錯を探究する。AI を、社会的なパラダイムを映し出す鏡であると同時に、未来を思考するための空間として捉え、その可能性と限界を問い続けている。過去に、アルス・エレクトロニカや成都ビエンナーレをはじめとする国際芸術祭や機関にて展示。これまで北京、バーゼル、ストックホルム、イスタンブール、マドリード、マイアミ、チューリヒなど世界各地で制作を発表している。

HP: <https://www.goethe.de/ins/jp/ja/index.html>

Instagram: <https://www.instagram.com/goethe.institut.tokyo/>

Facebook: <https://www.facebook.com/goethe.institut.tokyo/>

プレス資料（画像データ等）のご提供をご希望の場合は、お問い合わせください。

プレスお問合せ

ゲーテ・インスティトゥート東京 広報担当

サンドラ・ヴォーラウフ

presse-tokyo@goethe.de

電話：03-3584-3201



ゲーテ・インスティトゥートは、グローバルに活動するドイツ連邦共和国の文化機関です。海外におけるドイツ語教育の推進、国際的な文化協力の振興、ドイツの総合的なイメージの発信に努めています。70年にわたりドイツ語とドイツ文化へのアクセスを提供し、所在国の市民社会とのパートナーシップを通じた対話の実現に尽力することで、ドイツに対する持続的な信頼を築いています。ゲーテ・インスティトゥートは連邦外務省の制度的な支援を受けつつ、いかなる政党にも属さずに法的にも独立しています。自らの責任において活動し、予算の約3分の1を語学講座や検定試験の収益でまかなっています。現在100カ国に154カ所の拠点をもち、ドイツにはそのうち12カ所のゲーテ・インスティトゥートがあります。